

令和7年度 外国にルーツをもつ子どもの 学習支援の担い手研修

主催：岐阜県 事務局：岐阜県日本語学習支援センター〔（公財）岐阜県国際交流センター内〕

多様なことば、多様な学び。支援のヒントがきっと見つかる！



★対象：外国にルーツをもつ子どもの学習支援に関わっている方、興味がある方

★定員：30名（オンライン・対面講座ともに）

多様な文化的・言語的背景をもつ子どもたちが持つ力を、どのように捉えたらよいか、どう支援したらよいか悩んでいませんか。周囲の大人の関わり方、捉え方は子どもたちに大きな影響を与えます。2種類の講座で、日々の活動のヒントを見つけませんか？

新しい考え方を学ぶ

いろいろなケースをもとに考える

オンライン講座（Zoom）

令和7年

8/12(火), 9/18(木)

19時～20時30分、連続講座 全2回
Zoom

トランスランゲージング・レンズで 子どもたちの力を捉えよう

—母語も日本語も活かすことばの支援と評価—

★講師 立命館大学文学部・言語教育情報研究科
教授 佐野 愛子 氏

対面講座（各務原市）

令和7年

駐車場 3時間無料

8/24(日) 10時～12時

場所：各務原市産業文化センター4階
第2学習室（各務原市那加桜町2-186）

子どもを支える 学校・地域の支援を考えよう

—「クロスロード」ゲームを使って—

★講師 大同大学教養部
教授 松井 かおり 氏

【問い合わせ】

岐阜県日本語学習支援センター 担当：大洞
〔（公財）岐阜県国際交流センター内〕
TEL:058-214-7700 メール:gic@gic.or.jp

【申込フォーム】

申込メ切

8/5(火)
まで



<https://forms.gle/6WZF2hkBItxaP4TNA>



文部科学省

「令和7年度 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用

トランスランゲージング・レンズで子どもたちの力を捉えよう —母語も日本語も活かすことばの支援と評価—

✦ 講師 立命館大学文学部・言語教育情報研究科 教授 佐野 愛子 氏

■ 日本語でできることだけで、子どもの力を捉えていませんか

日本語を母語としない子どもは、文化的・言語的に多様な背景を持って学校に通っています。こうした子どもたちを「日本語ができない存在」と捉えてしまうと、子どもたちが学びの意欲を失ってしまったり、学びの機会を制限してしまったりしがちです。

■ トランスランゲージング・レンズとは

母語を含む、子どもが持つすべてのことばの力を言語資源と捉えることができれば、子どもたちの見え方は変わります。子どもたちの力を最大限に活かし、学びに繋げるためには、教師や支援者が、日本語だけでなく、母語の力も含めて包括的に子どもたちのことばの力を「まるごと」捉える「トランスランゲージング・レンズ」を身に付けることが重要です。

■ 「ことばの発達と習得のものさし」でことばの力を捉えてみよう

2025年4月に、トランスランゲージング教育論の考え方をもとに作成された「ことばの発達と習得のものさし」が公開されました（文部科学省発行、東京外国語大学 多言語多文化共生センター編）。子どもの認知的な発達を支えることばの力と、日本語習得の状況を多角的かつ包括的に捉えるための新しい評価の枠組みで、学びや成長を支えることばの力を捉えてみませんか。

文部科学省 | 文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のためのことばの発達と習得のものさしのページ ▶



子どもを支える学校・地域の支援を考えよう —「クロスロード」ゲームを使って—

✦ 講師 大同大学教養部 教授 松井 かおり 氏



■ 「クロスロード:外国につながる子どもの学習支援員編」とは

災害対応カードゲーム教材「クロスロード」（製作：チームクロスロード）をモデルに、多文化共生クロスロード製作委員会が作成したカードゲームです。瑞穂市教育委員会や市内の小中学校教員、瑞穂市のボランティアグループ「多文化子どもエデュニホ☆nico」の協力を得て作成されました。

このゲームでは、「クラス担任」「学校で活動する学習支援員」「外国につながる子ども支援をしているボランティアグループの学習支援員」等、様々な立場の人のジレンマ・葛藤について「自分がこの立場・状況にあったらどうするか」を考え、YES/NOのカードで自分の答えを表明し、考えを交わします。答えはひとつではなく、疑問や考えを出し合うことで気づき生まれ、「支援の引き出し」が増えます。

■ これまでにプレイした人の声

このゲームは、意見の相違に関わらず、他の人の考えに『なるほど』と思うことが多く楽しかった。やりながらもっと自分とは違う意見を聞きたいと思った。（地域ボランティア学習支援員・瑞穂市）

（前略）いつも目の前の問題の対応に追われて余裕がなかったが、一つの出来事を主観的にも客観的にも考えることができたと思う。（学校で活動する学習支援員・岐阜市）

自分の園で急に外国につながる子どもが増えて、様々な課題がもちあがって困っていた。今回のゲームを通して、同じ地域の先生方に話を聞いてもらうことができ、他の園での対応なども知ることができた。同じ課題でもいろいろな考えをもっている先生がいて、それも勉強になった。（認定こども園・海津市）